

平成 28 年 4 月 21 日

FSB による非現金担保の再利用の計測手法に関する市中協議文書に対するコメント

一般社団法人全国銀行協会

全国銀行協会として、金融安定理事会（FSB）が本年2月23日に公表した非現金担保の再利用の計測手法に関する市中協議文書に対してコメントする機会を与えられたことに感謝の意を表したい。今後、我々のコメントが十分に斟酌されることを期待する。

市中協議文書で提示された Question 1~11 のうち、以下の 3 つの Question に対して、コメントするのでご検討いただきたい。

Op.3

Q1. Does the proposed scope of transactions for data collection (Scope A) provide a practical basis for the meaningful measure of non-cash collateral re-use? If not, please explain how you think the scope should be broadened and the reasons why this alternative scope is more appropriate than the proposed scope.

(コメント)

範囲については、DEG（Data Experts Group）の収集対象であるレポ、証券貸借取引、マージンレンディングを通じて受入れ、再利用した担保取引のみ（スコープ A）とする案を支持する。

(理由)

DEG の収集対象であり、金融安定上のリスクの把握が十分に期待できる。

Op.6

Q2. Are there any practical issues (e.g. updating current business practices, IT systems) in relation to the three measures of collateral re-use that are set out in this Section? Are there any ways to improve these measures?

Q3. For the first measure, are there any practical issues in reporting whether collateral you posted is in the form of “own assets” or in the form of assets that were received as collateral in a previous transaction?

(コメント)

担保の再利用額の計測手法として、案 1 については、事務上のフィージビリティが確保できないので、案から外すべきである。

(理由)

レポ現先取引において、自己資産と担保受入資産とを区別することを実務上行っていない。また、仮に案 1 となるような場合には、システム対応や取引方法等相当の負荷が報告対象先にかかる。

以 上